

つなぎ FARM プロジェクトチーム

篠原 俊二 さん（小津奈木） 小嶋 泰治 さん（小津奈木） 林 辰徳 さん（倉谷） 新立 嘉孝 さん（大泊）



「耕

作放棄地が増えてきて、
どうにかしたいと考え
ていたところに役場か
ら声がかかり、4人でサラダ玉ね
ぎを始めました」。農家の篠原俊二
さん（小津奈木）、小嶋泰治さん（小
津奈木）、林辰徳さん（倉谷）、新

立嘉孝さん（大泊）で結成した
「つなぎFARMプロジェクト
チーム」。取り組みの後押しと
なったのが、自然栽培の講師と
して招かれていた馬場照昭さ
んの畑で玉ねぎをかじったと
き。「とにかく甘くて、葉っぱ

自然の恵みを受けた、 サラダ玉ねぎは甘い。



1



2

1. 幼稚園・保育園児による収穫体験。土に触れることが少ない
子どもたちの、生きた学び場となっている／2. 年間を通して15
種類ほどの野菜を栽培

有機農業を目指したい新規就農者募集

家庭菜園程度ではなく本気で就農を目指す人
を、有機農業のプロが応援。有機農業の世界
に飛び込もうという熱い思い人を募集していま
す。詳しくは、わらく農園の山崎幸治さん（☎
090-8620-0107）にお問い合わせく
ださい。



わらく農園
山崎 幸治 さん（竹中）

食は命をつなぐもの。だから、とことん自然に。

「私

たちのからだは、口
にしたものでできて
いる。だから、おい
しくて安心して食べられる野菜
を作りたいかった」。そう話すのは、
わらく農園の山崎幸治さん（竹
中）。町内に点在する畑ではじや
がいも、にんじんなど季節ごと
の野菜を年間で約15種類栽培。
種は自家採種し、栽培方法は農
薬、化学肥料、動物性たい肥を
使わない有機栽培。町内でただ
一人、国が定めた基準を守る「有
機JASの認証」を取得しまし
た。畑に負担をかけずに作物本
来の力を発揮できるように、人と
土の健康を考えています。

食べれば分かる

有機野菜のおいしさ

もともとは家庭菜園から始め
た山崎さん。「おいしいものを食
べようと育てていましたが、い
ろんなことに気付いていく。土
の正体は何なのか、そんなこと
まで考えが進んでいった」。自然
栽培や有機栽培は収穫するまで
に時間と手間がかかってしまい、
作物が実らないこともあります。
それでも山崎さんがこれらの

栽培にこだわるのは、肥料や農薬



足りないミネラルは海水を薄くして散布

までおいしい。私たちが作って
いる玉ねぎとは全然違うもので
した」と衝撃を受けたそうです。
4人が育てたサラダ玉ねぎは、
苦みやえぐみが少なく、甘さが
格別。耕作放棄地を借りて、無
農薬・有機栽培で量産を目標に
せず、「おいしい玉ねぎ」づくり
にこだわっています。「動物性の
肥料は土が分解しきれないこと
もあるため、『緑肥』と言われる
植物を栽培し、細かく刈って枯
らした後、土壌に入れて耕す方
法で土づくりを行います。大規
模にはできませんが、そういつ
たこだわりのものがほしい人に
販売しています」。流通を受け持
つ、つなぎ百貨堂とも連携しな
がら、付加価値の高い玉ねぎづ
くりを目指します。

苦労しても、

有機栽培を続ける理由

時間がかかり、形も不ぞろい
になることもある有機栽培。そ
れでも続ける理由を4人に尋ね

の力を借りて育てた野菜との圧
倒的なおいしさの違いを確信し
ているから。「無化学肥料・無農
薬で育てると、野菜は土の養分
を吸収しようと自分の力で根を
伸ばし、体に養分を豊富に蓄え
ます。甘やかされず育つほど本
来の味が濃くなる」と言います。
化学肥料などを使わないため、米
ぬかに納豆菌や乳酸菌、木酢液
などを混ぜ込んで土づくり。「自
然と共生する野菜を作っていく
ためには、土の中の微生物、酵
素のバランスが大切」。人の腸内
環境と似ていると話します。

幼稚園や保育園児、親子に種
まきや収穫体験などを定期的に
開き、土と野菜に触れてもらう
機会を作っています。野菜嫌いな
子どもが自然栽培の野菜だと
おいしく食べてくれたそうです。
「同じ野菜でも栽培方法で味や大
きさに違いが出てくることを、
実際に感じるはず。『生きた野菜』
を自分の目で見て、食べて、話
を聞いて、食に関心を持っても
らいたい」と小さな頃から食に
触れることの大切さを話します。
今日も自然とのつながりの中
で、少量高品質の野菜づくりを
楽しんでいます。

ました。「化学肥料や農薬を使用
すると、微生物が死んで、土に力
がなくなります。土に負荷をか
けて汚染する必要があるのかと
思っ。疲弊して良いものが作れ
なくなるなら必要ないし、土に負
荷をかけない方法が実現できな
いかと試行錯誤を続けています」
4人の表情からは安心でおいし
いものを食べてもらいたいとい
う強い思いが伝わりました。
これまでの7年は決して順風
満帆ではなく、試行錯誤や失敗を
繰り返した先に、ようやく今のス
タイルにたどり着いたと言う4
人。小学生の農業体験を受け入れ
ながら、後継者育成も見据え、熱
い思いをつなぐ挑戦は続きます。